



## 第49期 中間報告書

2016年1月1日 ▶ 2016年6月30日

株主のみなさまへ	1
部門別事業概況	3
連結財務諸表	5
トピックス	6

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日頃より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。  
また、平成28年熊本地震により被災されたみなさまには、心よりお見舞い申し上げます。  
当社第49期の中間報告書をお届けするにあたり、ごあいさつを申し上げます。

\* 本報告書では、2016年1月1日から2016年6月30日までを「中間」と記述しております。

### ■ 収益性の高いサービス等が順調に推移。増益を達成

当中間期を振り返りますと、個人消費および設備投資ともに伸びが鈍く、景気は停滞基調で推移しました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上の状況を見ますと、ビジネスソリューション部門はオフィスMFP（複合機）や保守サービス等の堅調な推移により微増となり、またITソリューション部門はSIサービス事業やプロダクト事業の順調な推移により増収となりました。一方、イメージングシステム部門は個人消費の低迷によりデジタルカメラが苦戦し、減収となりました。また、産業・医療部門は医療事業の低調な推移により、微減となりました。これらの結果、全社では減収となりました。

一方、利益につきましては、収益性の高いサービス、ソリューションの順調な推移に加え、業務の効率化による生産性向上、販売費及び一般管理費の合理化等により、増益となりました。（売上・利益の数値は右図をご参照ください。）

中間配当金につきましては、1株につき20円（前中間期と同額）といたしました。年間では、通期業績予想の当期純利益を据え置いていることから、期初に公表のとおり1株につき45円（前期と同額）を予定しております。

### ■ 新製品の投入等により、増収増益を見込む

本年後半のわが国の経済は、海外景気の下振れによる国内景気への影響や個人消費の低迷が懸念される等、不透明な状況が続くものと見込まれます。

このような経済環境のもと、当社グループの今期の後半を展望しますと、産業・医療部門が引き続き減収を見込むものの、ビジネスソリューションおよびITソリューシ

ョンの各部門は増収を継続してまいります。一方、イメージングシステム部門は新製品の投入等により、増収へと転じる見込みです。これらの見通しに基づき、年間の業績予想は右図のとおり、増収増益を見込んでおります。

また、「長期経営構想フェーズⅢ」実現に向けて、「キヤノン成長領域」および「当社グループ独自成長領域」の事業を伸ばすとともに、業務プロセスの変革や新規事業の開拓に取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2016年8月

代表取締役会長 村瀬 治男

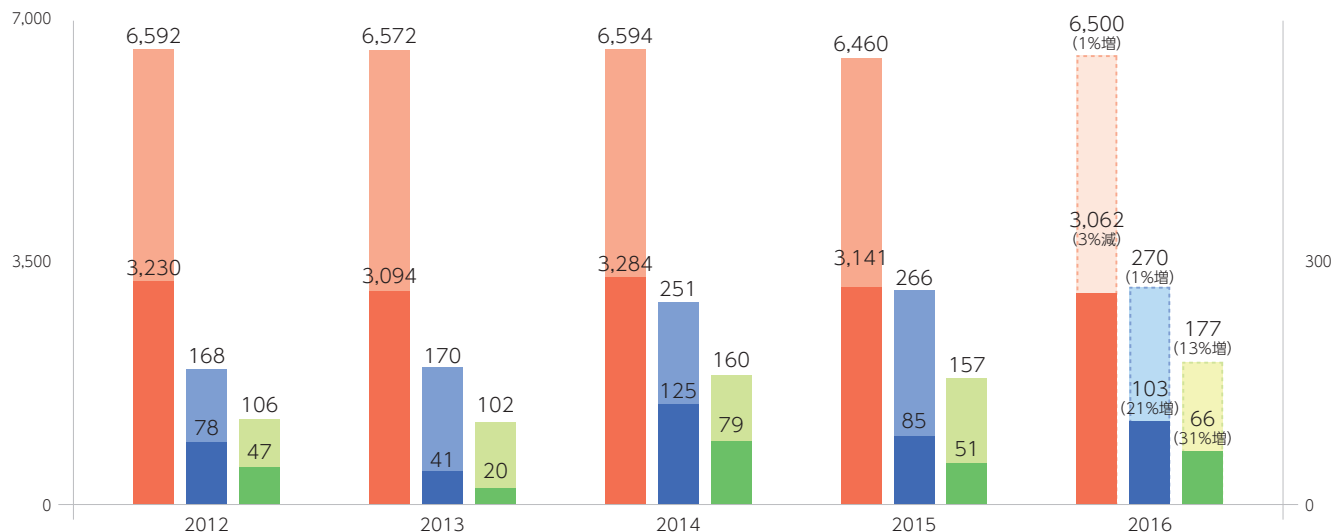
代表取締役社長 坂田 正弘



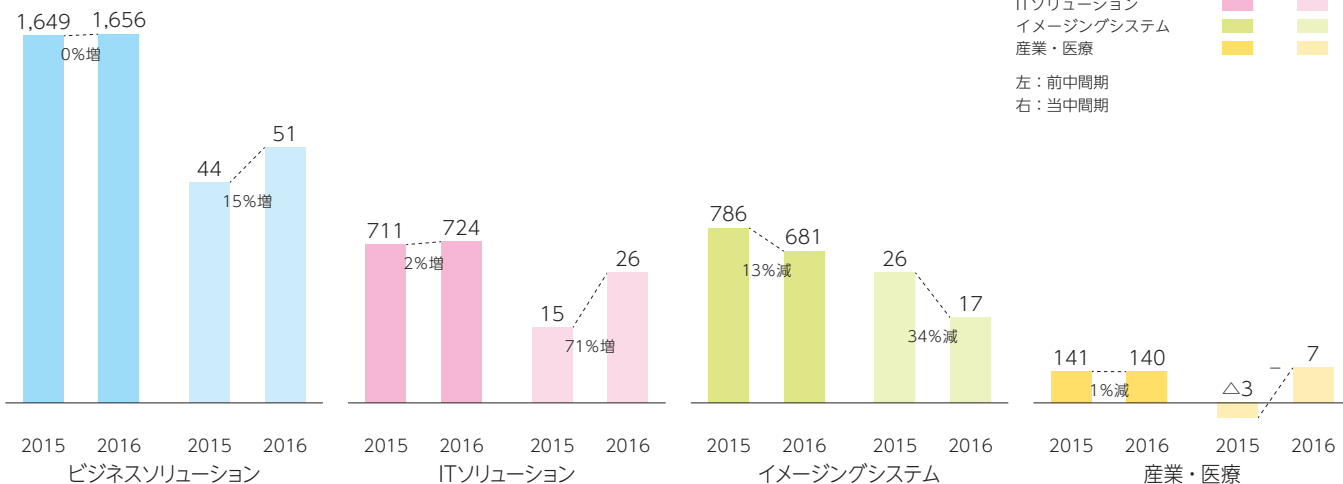
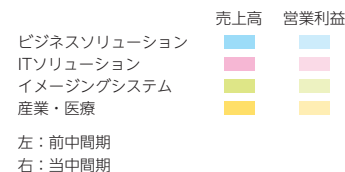
村瀬治男

坂田正弘

## 売上高・営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益推移 (単位: 億円)



## 部門別売上高・部門別営業利益 (単位: 億円)



## 部門別事業概況

\*以下の文章における増減に関する記載は、前中間期との比較に基づいております。また、各部門の売上高、営業利益は前ページをご参照ください。

### ビジネスソリューション

オフィスMFPは、「imageRUNNER ADVANCE C3300」シリーズ等の拡販により、新規顧客の開拓等に取り組みました。また、「imageRUNNER ADVANCE」シリーズの第三世代となる「C5500」シリーズを発売する等、ラインアップを増強しました。これらの結果、売上は増加しました。

プロダクションプリンティング（商業印刷等）は、新製品「imagePRESS C65/C650」を発売する等拡販を推進しました。しかしながら、連帳プリンターの新製品の出荷が遅延したこと等により、売上は減少しました。

レーザープリンターは、「Satera」シリーズ最速となる「Satera LBP352i」等を発売し、高速・大量出力市場の開拓に努めました。これらの結果、シェアNo.1を維持しましたが、大型案件の減少等により売上は減少しました。しかしながら、トナーカートリッジの売上は増加しました。

ネットワークカメラは、防犯・監視用途が好調に推移し、売上は増加しました。

MFP等の保守サービスは、市場稼働台数の増加等によりプリントボリュームが順調に増加したため、売上は微増となりました。



imagePRESS C65



Satera LBP352i

### ITソリューション

SIサービス事業は、金融機関や医療機関、製造業向け案件の拡大により、売上は増加しました。

ITインフラ・サービス事業は、システム基盤構築サービスやデータセンターサービス等が順調に推移し、売上は増加しました。

エンベデッド（製品組込みソフトウェアの開発）事業は、製造業の主要顧客向け案件の減少により、売上は減少しました。

プロダクト事業は、セキュリティ関連の製品等が順調に推移し、売上は増加しました。



西東京データセンター

## イメージングシステム

レンズ交換式デジタルカメラは、ハイアマチュアモデルの「EOS 80D」やプロフェッショナルモデルの「EOS-1D X Mark II」を発売し積極的に販売したことに加え、エントリーモデルの一眼レフカメラやミラーレスカメラの拡販に注力し、シェアNo.1を維持しました。しかしながら、市場が低調に推移したことにより、売上は減少しました。

コンパクトデジタルカメラは、新製品「PowerShot SX720 HS」等の高倍率ズームモデルを拡販し、シェアNo.1を維持しましたが、市場の低迷により、売上は減少しました。

インクジェットプリンターは「PIXUS MG7730」等の高付加価値モデルを中心にユーザーキャンペーン等を通じた拡販を行い、平均単価アップを図るとともにシェアNo.1を維持しました。これらの結果、売上は増加しました。しかしながら、インクカートリッジの売上は減少しました。

業務用映像機器は、放送局向け案件の堅調な推移等により放送用レンズが増加し、売上は微増となりました。



EOS 80D



PowerShot SX720 HS

## 産業・医療

産業機器は、半導体製造装置や検査計測装置の出荷台数が増加しました。また、保守サービスや修理部品の売上も順調に伸びたことにより、売上は増加しました。

医療事業は、医用画像分野のデジタルラジオグラフィー（X線デジタル撮影装置）が順調に売上を伸ばしたものの、調剤分野等が低調に推移し、売上は減少しました。



デジタルラジオグラフィー

# 連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)  
(百万円未満切捨)

科 目	当中間期 (2016年6月30日現在)	前 期 (2015年12月31日現在)
<b>■ 資産の部</b>		
流動資産	326,397	347,542
固定資産	136,296	138,959
有形固定資産	99,673	99,310
無形固定資産	8,370	9,499
投資その他の資産	28,251	30,150
<b>資産合計</b>	<b>462,693</b>	<b>486,502</b>
<b>■ 負債の部</b>		
流動負債	134,916	159,678
固定負債	46,031	49,385
<b>負債合計</b>	<b>180,947</b>	<b>209,064</b>
<b>■ 純資産の部</b>		
株主資本	278,646	275,247
資本金	73,303	73,303
資本剰余金	82,820	82,820
利益剰余金	154,436	151,036
自己株式	△ 31,913	△ 31,911
その他の包括利益累計額	2,656	1,760
その他有価証券評価差額金	2,192	2,775
繰延ヘッジ損益	△ 42	0
為替換算調整勘定	40	224
退職給付に係る調整累計額	465	△ 1,240
非支配株主持分	443	430
<b>純資産合計</b>	<b>281,745</b>	<b>277,438</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>462,693</b>	<b>486,502</b>

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)  
(百万円未満切捨)

科 目	当中間期 (自 2016年 1月 1日 至 2016年 6月 30日)	前中間期 (自 2015年 1月 1日 至 2015年 6月 30日)
売上高	306,236	314,096
売上原価	196,292	201,967
<b>売上総利益</b>	<b>109,943</b>	<b>112,128</b>
販売費及び一般管理費	99,628	103,606
<b>営業利益</b>	<b>10,315</b>	<b>8,522</b>
営業外収益	1,138	1,263
営業外費用	231	200
<b>経常利益</b>	<b>11,221</b>	<b>9,585</b>
特別利益	159	23
特別損失	412	279
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>10,968</b>	<b>9,330</b>
法人税等	4,308	4,235
<b>中間純利益</b>	<b>6,659</b>	<b>5,094</b>
非支配株主に帰属する中間純利益	18	18
<b>親会社株主に帰属する中間純利益</b>	<b>6,641</b>	<b>5,075</b>

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)  
(百万円未満切捨)

科 目	当中間期 (自 2016年 1月 1日 至 2016年 6月 30日)	前中間期 (自 2015年 1月 1日 至 2015年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,788	12,952
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,051	△ 38,372
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,377	△ 3,482
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 161	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,801	△ 28,903
現金及び現金同等物の期首残高	99,573	120,607
<b>現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>96,771</b>	<b>91,704</b>



### プロ用のフラッグシップ機「EOS-1D X Mark II」を発売

プロフォトグラファーと、高性能を求めるハイアマチュア向けのデジタル一眼レフカメラのフラッグシップ機「EOS-1D X Mark II」を4月に発売しました。高画質と最高約14コマ/秒の高速連写を両立するとともに、通信機能を強化する等、プロのニーズに応えたモデルで、発売以来報道やスポーツ等さまざまな分野で活躍しています。リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピック競技大会でも、日本代表選手団の熱い闘いを捉えた写真を送り届けています。

※キヤノンは、オリンピック・パラリンピック日本代表選手団ゴールドパートナー（スチルカメラ&デスクトップ・プリンター）です。



### 「imageRUNNER ADVANCE」シリーズの第三世代を投入

2009年の発売以来、好評を博してきたMFPの「imageRUNNER ADVANCE」シリーズ。その第三世代となる「C5500」シリーズ4機種8モデルを6月に投入しました。一人ひとりに最適な設定が可能な「パーソナライズ機能」をはじめ、業界トップクラスのファーストコピータイム、新開発トナーの採用による高品位なプリント等、新世代機にふさわしい機能を備えています。



### ITセキュリティ用の製品・サービスのラインアップを拡充

今後も大きな伸びが期待されるITセキュリティ市場。当社の長期経営構想における注力分野のひとつです。この分野を担うグループ会社のキヤノンITソリューションズ株式会社は、ランサムウェア（身代金要求型不正プログラム）対策に有効な「Clavister（クラビスター）Wolf」シリーズの販売やマルウェア（悪意のあるソフトウェアの総称）を解析してレポートする「マルウェア解析サービス」の提供を開始しました。また、米国ボーメトリック社製品によるエンタープライズ向け暗号化ソリューション事業を本格展開する等、ITセキュリティ用の製品・サービスのラインアップを拡充しました。

### 説明会・IRイベント

4月、大和インベスター・リレーションズ(株)が主催した個人投資家向け会社説明会に参加。約380名の参加者に向け、社長の坂田が当社グループの沿革や事業内容、業績推移、長期/中期経営計画等の説明を行いました。また、野村證券(株)やSMBC日興証券(株)の支店での会社説明会も行いました。

今後もこのような機会をなるべく多くつくりたいと考えております。今後の予定は、随時ホームページに掲載してまいります。



大和インベスター・リレーションズ(株)が主催した個人投資家向け会社説明会

### メールマガジン配信

毎週、IR情報をはじめとして、各種イベントへの出展情報・無料セミナーの情報をお送りしています。「投資家向け情報」の下記のマークよりご登録ください。



## IRサイトのご紹介



以下の各情報につきましては、当社ウェブサイト(<http://cweb.canon.jp/ir/>)をご覧下さい。

- IRニュース
- IR資料
- 経営方針
- 株式情報
- 財務データ
- など